

日中対照言語学会会報 (No.35)

2016年4月2日(土)発行

会報担当：続三義

加藤晴子

目次

1. 3月常務理事会拡大会議(2016年3月19日)議事録
2. 日中対照言語学会第35回大会(2016年度春季大会)のご案内

※ 事務局より

1. 3月常務理事会拡大会議(2016年3月19日)議事録

日時：2016年3月19日(日) 15:30~17:30

場所：大東文化会館k-403

出席者：続三義、王学群、高橋弥守彦、安本真弓、竹島毅、白石裕一、石井宏明(敬称略)

[審議事項]

① 第35回大会(2016年度春季大会)のプログラム

続三義理事長より、大会プログラムの試案が示され、承認された。応募者は9名あり、時間的にはちょうどバランスが取れる。1名あたりの時間を発表25分、質疑応答5分、合計30分とする。今年度は、開催校・東洋大学の副学長に開催校挨拶をしてもらう。大会当日、手伝いの学生3人に報酬6000円+弁当を支給する。高橋弥守彦常務理事より、研究発表者は司会者に一週間前に原稿を提出し、間に合わない場合、司会者に連絡することを各研究発表者に個別に通知することが提案され、承認された。

② 2016年度会員総会の議題

2015年度決算、2016年度予算、顧問、名誉会員の推薦、新しい常務理事や理事の推薦、その他が提案され、承認された。そのほか、会員費納入に鑑み、理事名簿を更新することが承認された。

③ 学会常務理事の推薦

大阪大会の後、余維常務理事等から提起された現理事・愛知県立教育大学の時衛国教授の常務理事への推挙について、高橋弥守彦常務理事により改めて提案があり、会員総会へ提案することが承認された。

④ 関係学会のウェブサイトとのリンクについて

続三義理事長より、中国語教育学会のサイトに当学会がリンクされていることが報告され、高橋弥守彦常務理事より本学会から正式に中国語教育学会にリンクの件を要請することが提案され、承認された。

国際連語論学会会長兼任の高橋弥守彦常務理事に続三義理事長がサイトのリンクを要請し、高橋常務理事の了承を得た。

⑤ 冬季大会の開催地について

従来通り大阪産業大学で開催するか、それとも別の開催地を探すか検討されたが、やはり従来通り大阪産業大学で開催する方針で合意した。

⑥ 2018年発行予定の特集号のテーマについて

常務理事をはじめ、多くの会員に声をかけ、テーマを集め、検討していくことが確認された。

⑦ 中国支部について

中国支部に対して、2016年8月に研究発表会の開催を提案することが確認された。

【報告事項】

① 学会誌第 18 号『日中言語対照研究論集』編集の進捗状況

安本真弓常務理事より、査読をへて現在 11 本の論文と特別寄稿 1 本の掲載が決まり、残りの 1 本は再査読中との報告がなされた。

② 会費納入の現状

白石裕一会計から、2015 年 12 月から 2016 年 3 月現在までに、更に 6 名の新入会員が増え、会員は 204 名に達したが、一方 2016 年度になると会費未払いにより退会者扱いになる会員が 12 名いることが報告された。

③ 学会誌送付の現状

竹島毅常務理事より、日本国内では 155 冊、中国に 38 冊、合計 193 冊が送付済みであることが報告された。

2. 第 35 回大会（2016 年度春季大会）のご案内

記

日 時：2016 年 5 月 22 日（日）午前 9 時 20 分より午後 5 時 00 分（予定時間）

会 場：東洋大学白山校舎 2 号館 16 階スカイホール（東京都文京区白山 5-28-20）

交 通：都営地下鉄三田線白山駅 A3 出口より徒歩 5 分

東京メトロ南北線本駒込駅 1 番出口より徒歩 5 分

参加費：1000 円（会員、非会員共通）

プ ロ グ ラ ム

受付（9：00-）総合司会 竹島 毅（大東文化大学）

大会開催校挨拶 高橋 一男（東洋大学副学長）9：20-9：30

開会の辞 続 三義（東洋大学）9：30-9：40

研究発表 1. 二種類の能格構文の派生関係を巡って—“手绢哭湿了”“张三累倒了”をタイプに
李 鵬（大東文化大学大学院）9：40-10：10

研究発表 2. 「時」の「前・後」と「大・小」
岡原 嗣春（大阪産業大学・近畿大学非常勤講師）10：10-10：40
以上 司会 平山 邦彦（拓殖大学）

休憩（10分 10：40-10：50）

研究発表 3. “瓶子里有水”から考える日中両言語の存在表現
洪 安瀾（大東文化大学大学院）10：50-11：20

研究発表 4. “形容詞+着”の意味用法について
王 学群（東洋大学）11：20-11：50

研究発表 5. 程度表現の対照研究—疑問のモダリティ表現
時 衛国（愛知教育大学）11：50-12：20
以上司会 安本 真弓（高千穂大学）

昼休み (60分 学食もあり、駅の周辺に食堂街あり) 12:20-13:20

講演 オノマトペの対照研究のために—中国語に擬態語はありますか?—

小野正弘 (明治大学) 13:20-14:20

以上司会 加藤 晴子 (東京外国語大学)

休憩 (15分: 14:20-14:35)

研究発表 6. 範囲副詞“也”の「後方スコープ型」構文に関する一考察

椿 正美 (中央大学) 14:35-15:05

研究発表 7. “把” 構文における使役表現について

小路口 ゆみ (大東文化大学大学院) 15:05-15:35

以上司会 白銀 志栄 (神田外語大学)

休憩 (15分 15:35-15:50)

研究発表 8. 様態補語として用いられる「V上」と「V起来」の比較研究

—様態描写がある場合を中心に—

邨 鷗 (新潟大学大学院) 15:50-16:20

研究発表 9. “(動態動詞+) 上+来/去”と客体との関係について

高橋 弥守彦 (大東文化大学) 16:20-16:50

以上司会 王 亜新 (東洋大学)

閉会の辞 加藤 晴子 (東京外国語大学) 16:50-17:00

会員総会

17:00-18:00

※当日入会申し込み、学会費の納入も受け付けます。(年会費: 社会人 4,000 円、院生 2,000 円)

講演および研究発表の要旨

講演 オノマトペの対照研究のために—中国語に擬態語はありますか?—

小野正弘 (明治大学)

要旨: 「オノマトペ」という語は、現在、擬音語と擬態語の総称として用いられている。このオノマトペは、日本語の語彙のなかで特徴的な存在であると言ってよい。歴史的に見て、オノマトペの語数は5000語ぐらいと見積もることができる(小野編『日本語オノマトペ辞典』では4500語収録)。一方、日本語の歴史的辞書として最大の『日本国語大辞典 第二版』(小学館)が収録する語数は、約50万語という。とすると、その1%、つまり、100語に1語がオノマトペであるということになる。日本語にはオノマトペが多い、ということは安心して言ってよい。また、日本語独自の特徴として、擬態語の存在があげられる。実は、「オノマトペ」という語は、もともとは、「擬音語」のみを意味していた。なにかの音や声を、言語音として模写するという事は、多くの言語で観察される。しかし、たとえば、「ふ」と「ら」の音の組み合わせから、イメージとして〈たよりなく揺れるさま〉を表現するという事は、実は、特殊なことである。擬態語が観察される言語としては、日本語以外では韓国語が知られているが、中国語には擬態語があると言えるのだろうか。擬態語とはどういうものなのかということを確認しながら、そのあたりを探り、広

く意見を尋ねたい。

研究発表

① 李 鵬 (大東文化大学大学院)

発表テーマ：二種類の能格構文の派生関係を巡って—“手绢哭湿了”“张三累倒了”をタイプに

要旨：本稿は影山太郎(1996)で用いる語彙概念構造における脱使役化と反使役化という的見地に立ち、中国語の能格構文の異なるタイプ：表層能格構文、深層能格構文(Lisa Cheng & James Huang(1994)に依る)を述語動詞の脱使役化、反使役化の操作に還元されると主張する。表層能格構文“手绢哭₁湿₂了”ハンカチは(誰かが)泣₁くことで、濡₂れたは述語動詞“哭湿”の脱使役化により得られ、深層能格構文“张三累₁倒₂了”張三は疲₁れ、倒₂れたは述語動詞の“累倒”の反使役化により得られる。表層能格構文に対応する他動性的構文は“张三哭湿了手帕”張三は泣₁くことで、ハンカチが濡₂れたであり、即ち脱使役化で抑制された主語の“誰か”が“張三”として統語上に具現されることにより、他動性構文が形成される。深層能格構文に対応する他動性構文は“这件事累倒了张三”張三はこのことに疲₁れを感じ、倒₂れたであり、即ち、反使役化で同定された“张三”に使役項“这件事”このことを付加することにより得られる。

② 岡原嗣春 (大阪産業大学・近畿大学非常勤講師)

発表テーマ：「時」の「前・後」と「大・小」

要旨：人間は「五感」と「移動」を通して様々な情報を脳内に蓄えるため、脳は「情報空間」と言われる。経験を通して脳内に構築された「時空間」は「空間」と「時」が融合した「仮想空間」である。

脳内の仮想空間で、ビデオのように再生される「記憶や想像の映像」で観える「空間と時間の変化」を、本論ではこれを「脳内時空間」と呼ぶことにする。

この脳内時空間にある「記憶」や「想像」を、我々は肉眼ではなく、心眼ともいえる脳内の視点で以て観る。

“以前/大前天/前天/后天/大后天/以后”などの言語表現をみても、「時」という抽象物に対して「前・後」という空間位置表示語を用いているのは、脳内では可視物として認識されているからである。

他方、脳内で可視物扱いの「時」は、物質のように認識される。物質には大きさが伴う。大きくなればその一辺の長さも長くなっていくため「長い＝大きい」という等式が成り立つ。

“长大(=成長)”という表現はまさにその時間が「長い」と「大きい」という認識が現れているといえる。

また、“大前天/大后天”の“大”も、現在からの時の距離の長さが“前天/后天”よりも長い場所にあるため、脳内において可視物である「時」のサイズが「大きい」ということを言い表していることが言及できる。

④ 洪 安瀾 (大東文化大学大学院)

発表テーマ：“瓶子里有水”から考える日中両言語の存在表現

要旨：中国語の存在表現には、「水、光、雪、風」などの「限界性、離散性に乏しい連続体」が裸名詞の形で用いられるのが普通である。

(1) 乌鸦看见一个瓶子，瓶子里有水。……乌鸦看见旁边有许多小石子，想出了一个办法。(《小学语文》)

カラスには一本の瓶が見えた。瓶のなかに水がある…カラスはそばにたくさんの石ころがあるのを見て、ある方法を思いついた。(木村 2011:114)

“许多小石子”に比較して、“水”の前に数量詞など限定成分がなくてもごく普通である。しかし次のような場合もある。

(2) 乌鸦看见一个瓶子，瓶子里有一些水。……(作例)

カラスには一本の瓶が見えた。瓶のなかに水が少しある/残っている…(筆者訳)

実際は、“水”のような「連続体」でも数量詞が付けられる。しかし例(1)の“瓶子里有水。”を「瓶のなかに水がある。」に訳することができるほか、「瓶の中は水だ。」との訳もありうる。それと違って、例(2)を「?瓶の中は少しの水だ」に訳することが難しい。数量詞をつけることで、「判断」する意味合いが弱まったのではないと思われる。要するに、上記の2例では、例(1)が「事物と場所との関わりを伝える文」と訳することもできれば、「事物と関わる現象を伝える文」に訳することもできるのに対して、例(2)は「事物と場所との関わりを伝える文」にしか訳せないということとは言えよう。

本稿は日中両言語に「連続体」の事物が見られる存在表現を考察してみる。

④ 王学群(東洋大学)

発表テーマ：“形容词+着”の意味用法について

要旨：周知のように、“着 zhe”は、動態助詞として動詞の後ろに置かれるのが一般的であるが、“形容词+着 zhe”というかたちでよく用いられるのも事実である。本稿では、“形容词+着 zhe”の場合について、実例を採集し、そのふるまいを明らかにしたいと考えている。

考察にあたり、基本的に北京大学中国語学研究中心の“语料库”を利用する。“形容词+着”をめぐっての幾つかの意味用法の中で、どこまで“形容词+着”と認めるのか、また、そういう意味用法の中で“着”がどんな働きをしているのか、“形容词+着”というかたちで使える形容詞が限られていることなどを明らかにする。

⑤ 時 衛国(愛知教育大学)

発表テーマ：程度表現の対照研究—疑問のモダリティ表現

要旨：本研究は中国語と日本語における程度表現と発話・伝達のモダリティの一つと思われる疑問のモダリティ表現との関係について考察することとする。

両言語の程度表現は、疑問のモダリティ表現と共起する場合にも、多くの共通点と相違点があるものと考えられる。例えば、「再喝点儿吗?/もっと飲むか」「不再喝点儿吗?/もっと飲まないか」などのように、“再”と<もっと>は、いずれも疑問のモダリティ表現と共起し、量の増加に対する質問と勧誘を表現することができるという点ではほぼ共通している。しかし、「他再喝点儿好吗?/他稍喝点儿好吗?」のように、“再”“稍”はいずれも第三人称の代名詞が現れた場合にも疑問のモダリティ表現と共起することができるのに対し、「??彼はもっと飲もうか?/??彼は少し飲もうか」のように、<もっと><少し>は、第三人称の代名詞が現れた場合は、共起することができない。

本研究では、両言語の程度副詞が「一般疑問文(真偽疑問文)」「特殊疑問文(疑問詞を用いての疑問文)」「選択疑問文(選択疑問文)」に用いられた場合、どのような共通点と相違点を持っているのかについて、先行研究を踏まえて究明することとする。

⑥ 椿 正美(中央大学)

発表テーマ: 範囲副詞“也”の「後方スコープ型」構文に関する一考察

要旨: 現代中国語の範囲副詞“也”(「～も～」)は、[NP+“也”+VP]を構成して類同を示し、“我也有词典”ならば「私も辞書を持っている」と訳出されることが多い。但し、“也”は意味論的には取り立てる対象の設定に柔軟性が含まれるため、スコープが後方に掛かる形式も構成し、その場合、文意は「私は辞書も持っている」となる。

このような“也”の機能について、刘月华 2001 は「同一の人や事物による 2 種類の属性や形状の具有」の表示と記している。また、複文の前後フレーズの成分に発生する異同の内容について、吕叔湘 1980 は「主語が同じで述語が異なる」「主語と動詞が同じで賓語または動詞の附加成分が異なる」を挙げている。

今回の調査に於いて、「後方スコープ型」複文の前後フレーズの関係について分析した結果、並列複文では同時存在、累進複文では拡張関係、逆接複文では逆接関係が成立することが確認された。本発表では、更に、スコープが掛かる位置の推定が困難な単文の用例も挙げて「前方スコープ型」単文の場合との比較を通じ、最終的に「後方スコープ型」と推定されるための条件について報告する。

⑦ 小路口 ゆみ(大東文化大学大学院)

発表テーマ: “把” 構文における使役表現について

要旨: “把” 構文は「処置文」を基本義とし、「使役表現」などを派生義とする。以下の例(1)、(2)を見てみよう。

(1) “大个子”三个字把祥子招笑了，这是一种赞美。(骆驼 2)

ノッポという三字が祥子の心をくすぐった。それは一種の賛美の言葉だった。(骆驼：27)

(2) 晚饭的号声把出营的兵丁唤回，有几个扛着枪的牵来几匹骆驼。(骆驼 2)

晩飯のラッパが鳴り、外にでていた兵隊たちが帰ってきた、その何人かは鉄砲を担ぎ、五、六頭の駱駝を引いていた。(骆驼：30)

例(1)の主体である“‘大个子’三个字”はモノであり、モノがヒトを処置することはできない。よって、この“‘大个子’三个字”が原因となり、「祥子の心をくすぐった」という結果に導いた。例(1)は因果関係の使役表現となる。例(2)の主体である“晚饭的号声”はコトであり、コトがヒトを直接に処置することはできない。よって、この“晚饭的号声”が原因となり、「‘出营的兵丁’が帰ってきた」という結果を導いた。例(2)も因果関係の使役表現となる。主体がコト・モノである“把”構文は、因果関係の使役表現ができる“把”構文である。本発表は、これらの“把”構文を考察・分析し、またそれと“叫”“让”“使”を使った使役表現との異同について、明らかにしようと試みる。

⑧ 邨 鷗(新潟大学大学院)

発表テーマ: 様態補語として用いられる「V上」と「V起来」の比較研究—様態描写がある場合を中心に—

要旨: 中国語の擬音語は音声を模擬した語彙である。擬音語の漢字は音声だけを示し、意義は示さない。擬態語は状態や感情などを字句で模倣したものである。擬態語のカタチも畳語がよく見られる。

これまでの研究では、「上」と「起来」は様態補語として用いられる場合の研究はあるが、「起来」と共起できる動詞及びその動詞の分類・特徴に関する研究は少ない。特に、様態描写がある場合に関する研究はほとんどない。様態補語として用いられる「V上」と「V起来」は動作・状態の開始と継続を表すとき、それぞれの文法的使い分けと意味の異同をさらに明確に示す必要があると感じられる。

擬音語がある場合

(1)a. 最小的孩子为麻雀的死哇哇哭起来, 最大的孩子安慰着他: “没关系, 回家哥哥烤给你吃。” (《林清玄散文》)

b. 最小的孩子为麻雀的死哇哇哭上, 最大的孩子安慰着他……

(1a)では、「哇哇」という声を出す瞬間の様態を表す。「哭起来」短時間内の人の表情の変化に着目し、泣き声がだんだん大きくなることを表す。「上」は動作の終わり時点または様態の継続を重視する。その原因で、例文(1b)は非文である。

擬態語がある場合

(2)a. 首先买入沙田酒店, 红红火火地经营起来。 (《世界 100 位富豪发迹史》)

b. *首先买入沙田酒店, 红红火火地经营上。

(2a)では、「红红火火」は擬態語として、普段商売や仕事の繁盛ことを表す。「红红火火地经营起来」は具体的な営業の様態を描写する文である。「上」は着点をもって、様態の継続を重視するので、(2b)が不自然な文である。

⑨ 高橋弥守彦(大東文化大学)

発表テーマ: “(动态动词+) 上+来/去” と客体との関係について

要旨: 位置移動の動詞“上”は、下から上への角度性の移動を表すので、その対象は角度性の名詞“山”である。この連語“上+山”を基本的なくみあわせとして、連語論の観点から、空間領域のくみあわせを分析すると、6 類のむすびつきに分かれ、ヒトの移り動きが図表化できる。この“上”の移り動きを表す機能に基づき他領域への転換が可能となる。

本稿では、以下に挙げる例文などのなかで、“上+客体”の後に趨向動詞を用いる「“上+来/去”」と客体、さらにその前に有様(移動)の動詞を用いる「有様(移動)の動詞+“上+来/去”」と客体を研究の対象とし、両者の構造を分析する。

(1) 上山去, 那儿风景不错。 (《用法词典》 p.626)

山を／に登ろう、あそこの景色は素晴らしい。(筆者訳)

(2) 从楼下上来几个学生。 (《用法词典》 p.625)

下から何人かの学生が上ってくる。(筆者訳)

(3) 温素玉又添了一盘花生米上来。 (《通释》 p.122)

温素玉は落花生をもう一皿持ってきた。(筆者訳)

(4) 他们已经搬上家具来了。(《用法词典》p.625)

彼らはもう家具を運んできた。(筆者訳)

(5) 他钓上来一条大鱼。(《用法词典》p.625)

彼は大きな魚を一匹釣りあげた。(筆者訳)

事務局より

1) 学会の入会は、日中対照言語学会ホームページ上で随時受け付けています。ただし、申し込みができない場合は王学群事務局長 (ohgakubun@toyo.jp)、または竹島毅常務理事 (sisi@kkd.biglobe.ne.jp) までご連絡をください。年間会費は社会人 4,000 円、院生 2,000 円となっています。

2) 毎月の例会の開催は、郵送ではなく、メールにてご連絡させて頂いております。不明の方がいらっしゃいますので、ぜひお知らせいただきたくお願い申し上げます。また、メール変更につきましても、同様にお願い申し上げます。

3) 年間会費の納入につきましては、大会開催時に受け付けております。また、都合により出席されない会員に対しては次号の会報から請求書を送付させていただきますので、ご納入のほどよろしくお願いいたします。

4) 第 35 回春大会発表決定者は、大会が開催される 2016 年 5 月 22 日の 1 週間前までに、発表の原稿を司会者の先生まで送るよう、お願いします。

